

病院長に聞く

病院長 ひらの 平野 のりかず 典和



新年のご挨拶



みなさま、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。本来ならば新年を寿ぐ言葉を綴るべきところではありますが、昨年と同様に新型コロナウイルス感染症や病院の現況に触れざるを得ません。この挨拶は昨年の11月下旬に認めております。世間はワールドカップの開催で熱気が高まっており、テレビなどでも世界中からカタールに押し寄せたファンが興奮した面持ちでマスコミのマイクに答えています。当然のように誰もマスクをしていない姿に不安を覚えるのは私だけでしょうか。国内でも夏ごろから各地の大規模イベントもほぼ解禁状態で、厚生労働省のV-RESASというサイトを見ると各地のイベントや旅行需要は完全にコロナ前に戻っていることが分かります。いっぽう、感染者数は増加の一途を辿り、すでに第8波であるとの観測もあります。富山県の病床使用率も40%に近付いており、レベル3（まん延防止）も危惧されます。当院でも一度は中止した感染者専用病棟を復活せざるを得なくなり、その後は今日まで入院患者が絶えることがありません。さらに最近の入院患者さんは昨年までとは異なり高齢者が中心となってきています。治療よりも介護に手を要する方が多くなり、これが現場を苦しめています。あのただでさえ息苦しい完全防御装備で患者さんの介護や治療にあたる職員にはただ感謝の念しかありません。加えて感染や濃厚接触のため出勤制限となる職員も少なくなく、一般診療に支障をきたす日も出てきました。労災病院では長らく断わらない救急を標榜してきましたが、これも10月には数日ながら病気の内容によっては断らざるを得ない日が生じました。また、地域の医療機関や施設などとの交流の場や各種の勉強会もほとんど開催することが出来なくなっております。地域医療の基幹を自負する労災病院の院長としてまさに断腸の思いと言わざるを得ません。さらに昨今の燃料費や電気代あるいは諸費の高騰はもとより良好とはいえない財務状況を著しく圧迫してきています。まさしく今年は四面楚歌の中で迎える新年となりました。もちろん景気対策や地域の活性化は行政の最重要課題であり一定の感染は容認する方向は理解できますが、病院の負担は積もるばかりです。本年は感染の状況や行政の意向を見定めつつ今後の労災病院の方向を探る困難な年になることが予想されます。

まことに新年にふさわしくない挨拶となりましたが、職員一同がもう一度気持ちを引き締めて業務に努めてまいりたいと存じます。魚津市の市民の皆様には一層の当院へのご支持やご支援をお願い申し上げます。

発行：独立行政法人労働者健康安全機構 富山ろうさい病院 地域医療連携室

富山ろうさい病院だよりは、当院ホームページ（URL <https://www.toyamah.johas.go.jp/dayori/>）

にも掲載しています。

【お問い合わせ先】TEL(0765)-22-1280（病院代表）

E-mail chiiki2@toyamah.johas.go.jp



▶バックナンバーはこちらの

QRコードからも確認できます。

医療のデジタル化

事務局長

たかはし ひでゆき
高橋 英行



新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。
新しい年となりましたので、現在進められる「医療DX」についてご説明したい
と思います。

いきなり「DX」と言われても何のことなのか分からないと思いますので、先
ず、言葉の説明をしたいと思います。「DX」とは、「デジタルトランスフォー
メーション」の略称で、「デジタル技術によって、仕事や社会、生活の形・スタイル
を変え、生活を豊かにしていく」という意味です。これには業務自体をデジタル
化していくというニュアンスも含まれております。「医療DX」となれば、保健・医療・介護（疾病
の発症予防、受診、診察・治療・薬剤処方、診断書等の作成、地域医療連携など）において発生する
情報やデータを、保健・医療や介護関係者が使用している業務システムの共通化・標準化を図り、国
民自身の予防を推進し、より良質な医療やケアを受けられるように、社会や生活の形を変えることを
意味しております。

「医療DX」が推進される背景には、「少子高齢化」が進む日本において、保健・医療情報の利活
用を積極的に推進することは重要であり、また、次の感染症危機において迅速に対応可能な体制を構
築しておくことが急務であることからです。

では、具体的に皆さんに関わることで、マイナンバーカードを用いた「オンライン資格確認シス
テム」（健康保険証などの確認）があります。当院では既に運用開始しておりますが、実は、令和5
年4月から医療機関や薬局に対して「オンライン資格確認」を導入することが原則として義務付けら
れております。また、マイナンバーカードを用いて政府が提供している「マイナポータル」において
診療、薬剤、医療費などの情報を確認することも可能となっております。

その他、この1月から「電子処方せん」が始まりました。「電子処方せん」とは、これまで紙だっ
た「処方せん」を電子化したものを言い、薬剤情報を共有することにより重複投薬の回避も可能とな
ります。

このような取組から、自らの健康維持・増進、医療の効率的かつ効果的な提供により診療の質の向
上や治療等の最適化が推進されることが可能となり、これが
「医療DX」の一部となります。

最後になりますが、令和5年も富山ろうさい病院らしいパ
フォーマンスを発揮して地域医療、魚津市民の健康を守るため
出来る事を鋭意努力していきたいと考えております。



富山ろうさい病院では、毎月、魚津市ケーブルテレビ「NICE-TV」による行政番組
「まちかど魚津」に、各診療科の医師が出演し、最新の医療情報を提供しています。

放送日程：1月1日～1月15日

放送時間：①午前7時 ②午後1時 ③午後5時 ④午後10時

「前立腺がんについて」（出演者）泌尿器科医師 木村 想



過去の放送はこちらの
QRコードからも確認できます。



NICE-TV まちかど魚津

富山労災病院からのお知らせ



【過去の放送はこちらから】

URL <https://www.toyamah.johas.go.jp/movie/index.html/>

令和5年の抱負

看護部長

すみた めぐみ
炭田 恵



謹んで年頭のご挨拶を申し上げます

今年も皆さまにとって健やかで実り多い年でありますよう祈念いたします。

新型コロナウイルス感染症発症から4年目を迎えようとしています。昨年は第6～7波を経験し、ピーク時には多くの職員が出勤停止となり救急や入院を制限して対応し「病院として当たり前と考える機能は、当たり前ではない」ことを痛感いたしました。「With コロナ」と言われますが、医療現場はいまだ様々なことが制限下にあります。早期の収束を願いつつ、今年も地域の医療状況を見極め、臨機応変に対応できるよう努めてまいります。

さて、ある日の当院の光景です。その日の実習を終えようとする看護学生さんが担当患者さんに終わりのあいさつをしました。「今日も素敵な時間を一緒に過ごして下さいありがとうございました。明日もまた来ますのでよろしくお願いします」と目線を合わせ、手を添え、優しい言葉がけでお伝えしたそうです。患者さんはもちろん嬉しそうに素敵な笑顔で「こちらこそ、明日も待ってるわ」と話されました。そばにいた看護スタッフは素晴らしい関わりに感激し自分の心も温かくなったと話しました。この関わりは、看護学生が「ユマニチュード」の技法を用いています。

ユマニチュード（Humanitude）とは、イヴ・ジネストとロゼット・マレスコッティの二人によって作り出された知覚・感覚・言語による包括的コミュニケーションに基づいたケア技法です。「見る」「話す」「触れる」「立つ」という人間の持つ特性に働きかけることによって、ケアを行う人は常に「あなたは大切な存在です」「あなたのことを大切に思っています」というメッセージを、ケアを必要とする人に発信し続けることが重要で、それによって人は自分が唯一の存在として、自分が尊重されていると感ずることが出来ます。

今年の看護部は、人と人との関わりを大切にし、この「ユマニチュード」について学習を深め、あたたかい心のこもった看護の提供に努めてまいります。

ユマニチュードの基本的な概念



引用文献

- 1) 本多美和子・イヴ・ジネストとロゼット・マレスコッティ：ユマニチュード入門、医学書院、2014.8.15 第1版第4刷

＜健康診断の結果、「精密検査必要」と言われた方の受診予約（電話等）を受け付けています＞

待ち時間が少なく、スムーズに受診できます。特にお仕事をされている方、多忙な方はどうぞ地域医療連携室（下記）にご連絡ください。

電話 0765-22-1354（平日9：00～16：00）

FAX 0120-935-631

当院では24時間救急患者様の受け入れを行っております。症状を自覚した時は、我慢をせず、速やかな受診をお勧めします。

発熱等の症状のある方は、まずは電話で連絡をお願いします。

電話 0765-22-1280（病院代表）

變更箇所：青字

～1月の休診～ (内科) 村上 4日 菓子井 4・6日 (循環器内科) 藤井 19日 (脳神経外科) 得田 4～13日
(泌尿器科) 石浦 17日 (眼科) 小澤 10日